

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホーム アウル登別館海ユニット		
所在地	登別市若山町3丁目8番地45		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型グループホームとして職員は専門性を高める努力をしている。その専門職の関わりにより認知症の進行を抑制し介護度が下がる事を目標に日々の生活の中で取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501156-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年3月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は幹線道路に面しており、近隣には各種大型スーパーも点在し、新興住宅地ではあるが利便性の高い立地地下にある。二つのユニットが入っている建物は二階建てであるが、階ごとに事業所を構成せず、ひとつのユニットが中心より右側の1、2階、他のユニットは左側の1、2階を利用するなど、二階建ての建物を左右に分けて使用するというユニークな造りとなっている。また各ユニットともに1階の居間等の共同スペースは吹き抜けとなっており、広く明るい空間が開放的な雰囲気を端的に表している。この事業所の優れている所は、利用者が自由にくつろげることを大切にされたケアの徹底と、その実践に取り組んでいる点である。たとえば、夕食後に外出を希望する利用者には理由を問うことなく同行し、本人の意思を尊重した介護に努めている。また日々の支援について目的をもって進み、ひとつの現状に甘んじることなく、利用者の出来る事が点から線に繋がっていくような工夫とアイデアをこめたケアを日々実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員でつくりあげた理念があり、日々実践し共有している。 また新人職員には十分理解し実践に繋がるよう理念の大切さや意味を説明を行い、理念カードを配布している。	職員の大幅な入れ替えが2年前にあったため、それを機に皆で話し合い、事業所の理念をつくりあげた。実践に活かせるよう理念カードを携帯し、日々支援の場で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には積極的に参加している。日常的に近隣のお子様当事業所の飼い犬の散歩を行っている。また、近所のスーパーへ利用者の方々が買い物へ行き、繋がりを持っている。	地域は新興住宅地で共稼ぎ世帯が多く、密接な交流には至っていないが、町内会のごみ拾いや敬老会、祭りなど各種行事への参加を通じた事業所の地道な努力により、近所の人が事業所の犬の散歩を担うなど、親密さが増してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターと協力しながら、徘徊模擬訓練や事業所管理者が認知症サポーター養成講座を行い、地域の皆さまに理解を得られるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が参加し委員から意見、要望をいただきサービス向上に活かしている。職員全員にまで周知できるよう、今後職員の参加や会議録の回覧、全体会議での共有等を行っている。	運営推進会議は町内会役員や家族代表を中心に、定期的開催している。事業所の玄関に会議録を置いて内容を公開し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の委員については、町内会にこだわることなく多様な職種に依頼するなど、多角的な論議が可能となる委員の構成に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、徘徊模擬訓練、研修会を通じて連携を図っている。また、必要に応じて窓口へ行き連携や連絡、パソコンメール等も利用し情報の共有は図られている。	行政が行う各種勉強会や交流会に参加し、信頼できる関係性の構築に努めており、情報の交換等、協力関係を継続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、日常的に身体拘束を行わない支援について話し合っている。定期的に会議を行い、職員全員で取り組める仕組みと体制を整えており、研修会には積極的に参加している。また、代表者により勉強会、研修会を通じて拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を定期的に開催し、研修や事例の検討を行い、拘束と無縁なケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議を行い職員全員で取り組める仕組みと体制を整えており、常に職員で同士が話し合える関係作り、環境を整えている。また、代表者による勉強会、研修会などを通してケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業に関する情報や知識は、事業所内の勉強会で行っているが、十分な理解には至っていない。特に新人職員は多い為、今後より多くの勉強会の機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じてその都度不安、疑問点が解消されるよう十分説明を行っている。また、面会時電話連絡時等聞けるような体制、関係作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、ご家族、入居者が外部に苦情申し立てが出来るよう、苦情等に関する連絡先を提示、口頭で説明している。また、日頃から言いたい事を言ってもらえるような関係作りを心掛けている。	家族アンケートを実施したり、玄関に意見箱を設置している。また年に2回程度家族との食事会を設けるなど、家族や利用者のサービスに対する満足度を常に意識し質の向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見や提案を聞けるよう心掛けている。職種や役職に関わらず、より良い支援が出来るよう、全体会議やユニット会議を発言の機会としても意見交換を行ない職員全体で反映できるよう努めている。	職員が定例会議や打ち合わせで、活発に論議できるような環境作りが出来ており、上下関係にとらわれず提案や意見交換を行い、サービスの充実に事業所全体で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員全員の状況を細かく把握しており、必要に応じて助言や向上心が持てるような言葉掛けをして頂いている。また、資格取得がしやすいよう、資格取得時の補助金や資格に対しての手当があり、やりがいを持てる就業環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ、職員に合わせた研修を代表者自ら講師となり、頻繁に開催している。また、外部の研修にも積極的に参加できる体制を整えている。法人でキャリアパス支援研修事業を活用し研修会の開催、職員が研修を企画、開催し個々、全体の知識の向上ができる環境となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西胆振広域連絡会等で同業者の交流会に参加している。また、登別グループホーム友の会で他グループホームと協力しながら研修会の開催等を行っている。また北海道GH協議会に加入しており、多方面での交流ができる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの相談時から本人の状況、生活の中での支障を十分把握した上で本人が安心して入居し、生活出来るように配慮している。また利用前にはご家族にセンター方式シートを渡し、関係作りがスムーズに行える様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際にはご家族と十分な話し合いをし、不安に思っている事を一つ一つ解消していきながら、汲み取れる要望には応えられるよう慎重に関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを汲み取り、必要としている支援を見極め、アセスメントを行い、インフォーマルサービスも含め支援の検討に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体的に考え、行動し、当たり前の普通の生活が出来よう支援の必要な所にだけ、さり気なく手を差し伸べる事を徹底しており、共に生活し支えあう関係である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性や思いに合わせ、より良い関係を継続出来るよう配慮しながら、共に支えられるよう、報告、連絡、相談を密に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院、喫茶店、お店には定期的に出掛けられるよう支援している。また、知人やお友達等、気軽に会いに来て頂けるよう、働きかけている。また近親者には広報誌を送り、本人がどのように生活しているがわかるよう伝えている。	馴染みの店の利用は積極的に支援している。また毎月のホーム便りを家族に限定することなく、希望する近親者や関係者にも送付しており、今までの関係性を維持促進する姿勢で取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりの中でどこで介入が必要であるのかを十分に見極め、極力利用者同士の関係を阻害しないように努めている。また、支えあえるような場面作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去には、お見舞いに行く等の面会、亡くなられた方の葬儀に参列させて頂く等、本人、家族の心身状態を汲み取り相談や支援に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で様々な方面からアセスメントし、本意のニーズを探り出し、介護計画に反映している。	日々の支援を続けるなかで、思いや意向を汲み取り、利用者の希望に沿うように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時のライフヒストリーや本人、家族から情報を職員全員で共有している。また入居前にはセンター方式シートを分かる部分を記入していたき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動・行動等でその時の心身状況を把握している。日々の細かいアセスメントで暮らしの現状は把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しを一月ごとに行い、家族の意向も踏まえ、月に一度のユニット会議に検討している。	本人や家族の意向を取り入れた介護計画は4ヶ月ごとに見直され、介護目標への日々の評価がモニタリングと蓄積され、目的を持った介護が十分に活かされる介護に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自のアセスメントシートに個々の生活の様子、実践内容の記載、ファイリングを行い、職員全員で情報を共有している。また申し送り簿の平行活用で情報交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かし、本人や家族の状況に照らし合わせ、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居される前から地域との繋がりを把握し、本人や家族とその都度話し合いながら支援している。また、新しい繋がりを構築出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態により、医療機関が変わる事はあるが、原則的には今までかかっていた医療機関を継続して受診している。	以前からのかかりつけ医は変更することなく受診出来ている。また、協力医が月2回往診し、訪問看護は月4回の体制で臨むなど医療の充実を図り、適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、必要に応じて相談を行っている。また、8年目という事もあり馴染みの看護師もいる事で入居者の状況を専門的に支えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会等を行い本人が安心して治療できるよう支援している。また、ソーシャルワーカーと連絡を密に行い、早期退院のメリットなどを伝え、本人や家族にとって最善の状況で過ごす事が出来るよう働きかけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも重症化や終末期の説明はしている。実際に本人がその状態になりつつある段階から十分に話し合い、今後の方向性や本人、家族に意向を十分医療従事者と話し合っている。また職員は終末期における研修会も受け、内容を周知状況に合わせた支援を行える様取り組んでいる。	契約時に終末期のケアについて書面で説明しており、本人と家族の意向を尊重するケアに取り組んでいる。また終末期の生活について、日頃から希望や思いを聞き取り、本人の意向を家族や医療機関に伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。また、2年に一度普通救命講習を職員全員が受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に避難訓練を行っている。また、昼夜それぞれ、想定し避難訓練を行っている。また、緊急連絡網の整備、災害時用の備品、非常食を備えている。	秋と春、年に2回消防署指導により夜間想定を含め避難訓練を実施しており、災害時の備品についても常時完備し、安全を期した取り組みをしている。	災害時の対応として、地域との協力体制が不可欠と思われる。事業所の防災訓練に対して地域住民の参加は十分ではないが、地域密着型を標榜している地域の基幹として一層の責任を自覚し、積極的なPRに取り組むことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だという事を念頭に置き、言葉や態度に十分気を付け接している。	利用者の意向や願いを聞き取り共有している。人権や誇りを尊重しながら支援に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人主体で生活出来るよう、何に対しても自己決定出来る場面を設けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が選択する場面を多く準備し、その人それぞれに合わせた支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室へ行ったり、本人の好みに合わせ、おしゃれが出来るよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考え、買い物に行き、調理をし、食べる。という一連の流れで記憶を繋げ、達成感を得られ、生きている実感を得られるよう支援している。	日々の支援の中でも大切な事項と考えて取り組んでおり、食べるまでの過程の一つひとつを思い出すように調理や配膳に参加するなど、日常生活にメリハリが出るように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態、好みに合わせアセスメントをした上で負担なく、栄養や水分が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的に出来ない方には声掛けしたり、モデリングを行い、一緒に出来るよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの能力、状態に合わせて出来る限りトイレでの排泄を支援している。 又、本人のサイン、排泄パターンの把握により、失敗のない様支援に努めている。	布パンツでの生活が普通になるように、職員全員で利用者一人ひとりの意識と現状を把握し、その人の排泄サインを見逃さないように、支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と食事、水分摂取を総合的に考え、乳製品や繊維質を多く含んだ食事の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう、準備している。また、それぞれの希望やタイミングに合わせて、職員配置時間も変更し入浴が楽しめるよう支援している。	いつでも入浴出来るように常時用意し、利用者の希望に沿えるように取り組んでいる。入浴を拒否する時は無理強いすることなく、工夫とアイデアにより個々にあった支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜にとらわれず、本人に合わせて熟睡できる場所や時間帯に安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録と共にファイリングし、生活状況と見比べて、副作用の可能性や効果の有無を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する能力に応じ、やりたい事、得意な事が自然に出来るように配慮している。また、今までの楽しみ事を継続出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出掛けたい時はいつでも出掛けられるような環境を整えている。また、お墓参りや年末年始の帰宅、家族と協力しながら支援している。	個別支援を中心に取り組んでおり、夕食後に必ず外出を希望する利用者にも毎日付き添って同行している。また買い物や墓参、床屋の利用など、家族との協力を得ながら外出に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があり、管理が可能であれば所持出来るよう配慮している。買い物の際には現金を本人に使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内に公衆電話を設置しており自ら電話できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまわくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、木造作りで温かい印象を与え、やわらかい照明となっている。職員は常に不快な音をたてないよう注意を払っており、居心地良く過ごせる様配慮している。	居間や食堂の共用空間は吹き抜けとなっており、広く開放的でゆったりと過ごせる造りとなっている。2階からは居間が見渡せる構造で、利用者一人ひとりに合わせた居場所への配慮と工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる囲炉裏や、気の合う者同士で過ごせる空間、皆で賑やかにおしゃべりが出来る空間があり、その時それぞれ選択出来るよう、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた馴染みの家具や小物を持ってきて頂き、本人や家族と相談しながら少しでも居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は馴染みの家具類が置かれており、家族の写真や自作の小物も飾るなど、気持ちが落ち着く部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意図的に段差や負担のかかる場面に遭遇する様な設計になっており、生活の中で筋力の維持、向上に繋がる様にしている。		